

開催
レポート

第3回 事前復興まちづくり ミーティング



令和 8 年 8 月 1 日 土 午後 2 時 - 5 時

会場：杉並区役所第5・6会議室（西棟6階）

“みんなで目指したい復興後のまちの姿”や、
“自分たちでもできる事前復興”について考えてみましょう！

✔ 立場の違いを知る > ✔ 復興の目標を考える > ✔ 自身の行動につなげる

自分ごととして考える 事前復興まちづくりワークショップ

いただいたご意見は、「(仮称)杉並区事前復興まちづくり方針」で定める復興後の目指すべきまちの姿
＝都市復興の目標や、今後の区の前復興まちづくりに活かしてまいります。

参加者 22名

：区民 21名・区内在勤 1名

一般公募：広報やホームページ、Xなどにより募集

講師

東京都立大学 都市環境学部 教授

市古 太郎 先生

早稲田大学 社会社会科学総合学術院 准教授

益子 智之 先生

事務局

区職員 9名

1. 区からの説明・質疑応答 – 30分

2. 基調講演・質疑応答 – 35分

「回復力のあるコミュニティをつくる」

市古 先生

3. グループワーク – 60分

ワーク1 復興ロールプレイングYES・NOゲーム

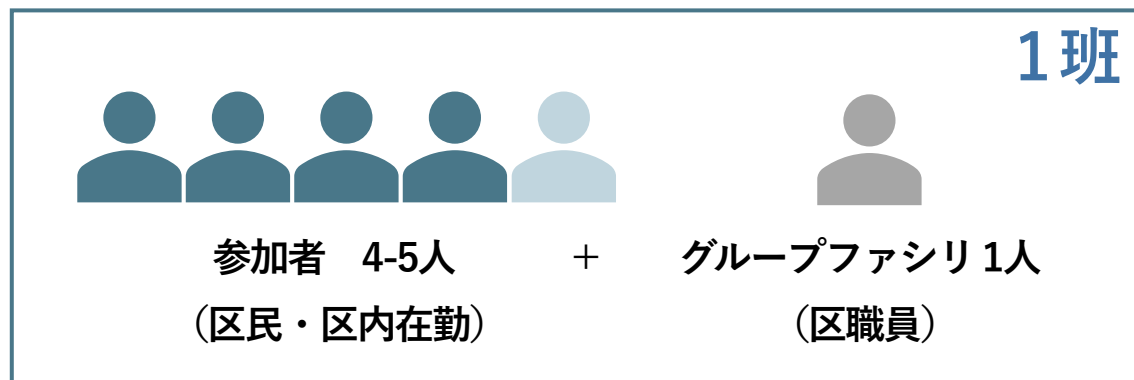
ワーク2 都市復興の目標を自分ごととして考えよう

ワーク3 今日からできる事前復興を考えよう

4. 発表・講評 – 25分

グループワークの進め方

グループの編成



5班 (A～E班)

グループワークの流れ



グループワークの詳しい進め方と結果について、次ページ以降にまとめています

グループワークの様子



グループワークの進め方

復興ロールプレイングYES・NOゲーム

ワーク1

STEP 1：付与された役割(ロール)を基に、復興が進むにつれて求められる判断に対して「YES・NO」の2択で回答

STEP 2：「YES・NO」選択の理由を付箋で共有

第2問：何

①手持ちの札で回答



②記録として、グループファシリがシールを貼付

③選択の理由を付箋で共有

都市復興の目標を自分事として考えよう

区で提示した都市復興の目標に対して、気付いたこと、感じたことを付箋で共有

各班ごとに用意されたテーマ（個別Q）について、自分なりの考えや気づきを付箋で共有

ワーク2

STEP 1 まちのすがた①について
まちのすがた・小目標についての意見を共有

1つの小目標を発展させた問いかけに対して、自分の考えを共有

STEP 2 まちのすがた②・③について
まちのすがた・小目標についての意見を共有

1つの小目標を発展させた問いかけに対して、自分の考えを共有

ワークで検討する「まちのすがた」について

ABC班は、まちのすがた①と②、
DE班は、まちのすがた①と③について回答

STEP1

まちのすがた①
住宅街について

ABC班

DE班

STEP2

まちのすがた② 駅前・商店街について

まちのすがた③ みどりと水辺の空間について

ワーク3

今日からできる事前復興を見つけよう

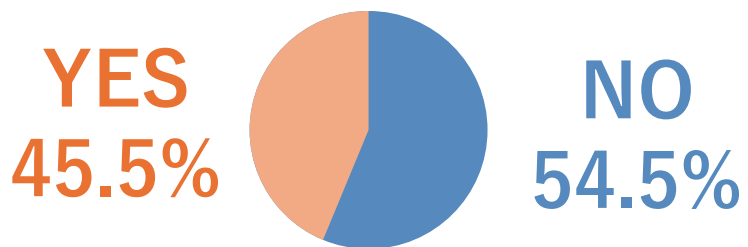
事前復興の一環として今日からできることを、
「自分個人ができること」「自分が地域の一員としてできること」2つの視点から考えて、付箋で共有

付与された役割（ロール）と状況をもとに、被災後、復興が進むにつれて求められる判断に対して「YES・NO」の2択で回答

《設問の詳細については、グループワーク説明資料をご覧ください。

※貼られた付箋の一部を要約・ご紹介しています

第1問
地域復興協議会の役員を引き受けますか？



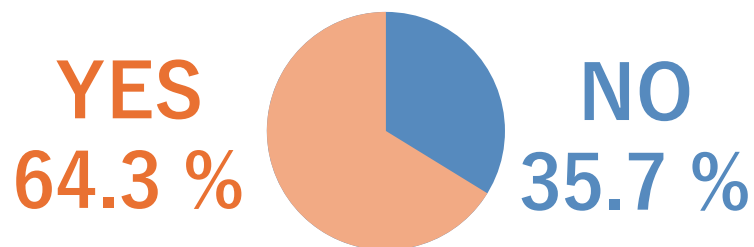
YESの理由

- 地域の一員として、出来る事で支え合いたい
- 参加すれば、自宅の生活再建に役立つ情報などが得られる可能性がある

NOの理由

- まずは生活第一、家族の安全を第一に考えていくことが大事
- 「勤め」が中心の生活が続いていて、そちらの活動が優先されるだろう

第2問_ABC班
児童公園を応急仮設住宅用地として活用することに賛成しますか？



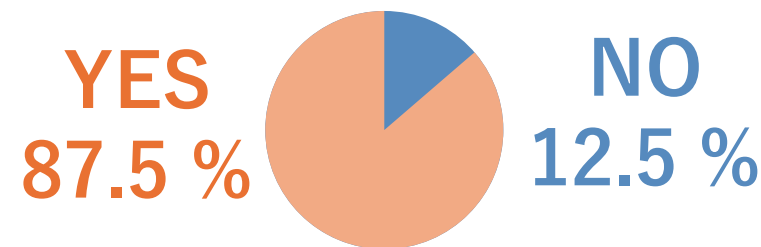
YESの理由

- 「衣食足りて礼節を知る」生活が最優先
- 新しく植える楽しみもある!?
- 家を建ててもみどりは作れる

NOの理由

- 精神的な心のうるおいが必要ではないか
- 狭い土地は利用効率が低い。それより子供の心の回復が優先

第2問_DE班
復興祈念盆踊り大会を開催することに賛成しますか？



YESの理由

- 状況次第だが、場所、資金、人材があるなら「やる」となれば目的ができる
- Yesだが…大震災への認知向上や支援等の募集を目的に開催したい

NOの理由

- 発災3ヵ月後のまちは悲惨。まち外へ避難している町民も多いため労力を復興に投入したい

ワーク 2 では、ABC班は、まちのすがた①と②について、DE班は、まちのすがた①と③について、

- ・まちのすがた・小目標に対して気付いたこと／感じたこと
- ・各班ごとに用意されたテーマ（個別 ）に対する自分なりの考え を共有し合いました。

ABC
班



まちのすがた①：災害に強く、人がつながり、誰もが住み続けたいと思えるまち

- 【小目標】
1. 災害に強く、命と暮らしを守るまち
 2. ゆとりある住環境のもと、落ち着いた暮らしが続くまち
 3. 開かれた地域コミュニティで顔の見える関係性のあるまち
 4. 人生のどの段階でも、住み慣れた地域で暮らし続けたいと思えるまち
 5. 歴史と地域性を次の世代にも引き継ぎたくなる、愛着のあるまち
 6. 誰もが将来の住まいの再建を見通せるまち
 7. 被災後も地域とのつながりを維持し、円滑に暮らしの再建・再定着が可能なまち

DE
班

ABC
班



まちのすがた②：にぎわいと交流を育み、日常も非常時も暮らしを支える個性ある駅前・商店街

- 【小目標】
1. 地域に愛され、誇りとなる個性ある駅前・商店街
 2. 買い物＋αで日常的なにぎわいと交流・滞留を生む、人が主役のまち
 3. 広場やオープンスペースを備え、日常から非常時まで人を受け入れる駅前・商店街
 4. 多様な都市機能の導入により、持続的ににぎわいと暮らしを支える駅前・商店街

まちのすがた③：穏やかな自然に包まれ、安心と人のつながりが広がるみどりと水辺の空間



- 【小目標】
1. 世代や背景を超えて人がつながり、みどりを通じた地域コミュニティが持続するまち
 2. 日常では憩いと交流を育み、非常時には命と暮らしを守るみどりの空間
 3. 歩いて楽しく回遊できる、静かで心地よいみどりと水辺の空間
 4. 自然の機能を活用するグリーンインフラの考え方を取り入れた空間

DE
班

まちのすがた②駅前・商店街

- みどりがある静かな街、子供が安心して暮らせる街
●きれい、清潔 ● ALL OK

個別



被災後、「この地域に住み続けたいけど、それができない」と感じるのはどのような時ですか？

- 建物のコスト、ローン、年齢
●高齢で新しいコミュニティができそうもない
●予見可能性が低いとき ●安全でないとき

都市復興の目標について、気づいたこと／感じたこと

- ## ●将来像：24時間動きつづける

個別



大規模な被害が生じた駅前・商店街においてまちの復興が進む中でも「このまちらしさが残っている」と感じるの、どんな点ですか？

- チェーン店 1～2割、個人経営店 8～9割 ●本屋、喫茶店（モーニング）
●駅前、商店街に「このまちらしさ」は不要

[illegible]

pp.9-13では、
ワーク2で貼られた付箋の
一部を、各班ごとに
要約・ご紹介しています

都市復興の目標について、気づいたこと／感じたこと

- 耐震・耐火構造の建物の推進
- そこにいる人（障害者・外国人・こども）が守られる
- 地域コミュニティができる場を復興でひろげる
- 単身世帯の若者は、どこに越せば良いかが大きな課題

個別

Q 大きな被害を受けた地域が整備されるときに、「もう同じ被害を繰り返さない」と思えるのは、どんなまちのつくり方ですか？

- 地域ごとに集まれる広場・公園をつくる
- 井戸を大事にする
- 建物の堅ろう化・道路拡幅・公園整備
- ブロック塀の耐震化
- 空家を空地に
- 消防車が通れる広さの道

都市復興の目標について、気づいたこと／感じたこと

- 個人商店を他人が引継ぎ他業種に変わっても存続できる仕組み
- たまに行く美味しい店がある
- 雑多な建物を整理
- 自転車で動きやすい街

個別

Q 復興後の駅前・商店街が、「普段も便利で、いざという時にも頼れる場所」になるには、どんな機能や空間が必要だと思いますか？

- 住宅に近い商店が存在し続けること
- 耐震性の高い商店
- 駅ロータリーの狭さや南北通行の分断を改善希望
- 衣・食・会話が生まれる店の維持

第3回 事前復興まちづくりミーティング グループワーク

～それぞれの立場からみた都市復興と、今日からできる事前復興を考えよう～

都市の復興とは：災害により傷ついたまちが、被災前よりも元気な、良いまちとして生まれ変わること

B班

ワーク1 復興ロールプレイング YES・NOゲーム

第1問：地域復興協議会の役員を引き受けますか？

YES NO

第2問：児童公園を応急仮設住宅用地として活用することに賛成しますか？

YES NO

ワーク2 都市復興の目標を自分ごととして考えよう

まちのすがた① 住宅街

災害に強く、人がつながり、誰もが住み続けたいと思えるまち

災害に強く、人がつながり、誰もが住み続けたいと思えるまち

まちのすがた② 駅前・商店街

にぎわいと交流を育み、日常も非常時も暮らしを支える個性ある駅前・商店街

ワーク3 今日からできる事前復興を見つけよう

自分個人ができることは？

自分が地域の一員としてできることは？

都市復興の目標について、気づいたこと／感じたこと

- 「2.ゆとり～」が具体的ではなくあいまい!?ベストな状態は?
- 道路（復興にとっても大切）をしっかりと作る
- 住宅街として緊急車両が通れるように、区画整理をしていく。

個別

Q

日常の暮らしの中で、「落ち着いていて、長く住み続けたい」と思えるまちには、どんな空間や環境が必要だと思いますか？

- 多世代が交流できる場所
- 公園が多くある
- 知っている人が多くいる
- 自分が活躍できる場所
- 住環境などハード面、人づき合いなどソフト面
- おいしいご飯・良さげなスーパーなど

都市復興の目標について、気づいたこと／感じたこと

- 「個性」を推す!! めっちゃ良い!!
- 大型スーパーマーケットなど、きれいだから魅力的とは限らない
- 広場やオープンスペースが「人を受け入れる」ではなく「人が場所を使いたおす」へ
- 安心感のある街

個別

Q

復興後の駅前・商店街で、「思わず立ち寄りたくなる」「ゆっくり過ごしたくなる」と思えるのは、どんな場所や使われ方ですか？

- 本屋さんや図書館、サービスコーナー
- 防災的な面で考えると画一的な街なみになりやすいが...
- 歩道が広いこと
- ファミリー層などが広いスペースでフリーに過ごせる場所
- いろんなお店があって盛り上がってわちゃわちゃしてる
- 美味しいごはんが食べられるところ

第3回 事前復興まちづくりミーティング グループワーク

～それぞれの立場からみた都市復興と、今日からできる事前復興を考えよう～

都市の復興とは：災害により偏ったまちが、被災前よりも元氣な、良いまちとして生まれ変わること

C班

ワーク1 復興ロールプレイング YES・NO ゲーム

第1問：地域復興協議会の役員を引き受けますか？

YES NO

第2問：児童公園を応急仮設住宅用地として活用することに賛成しますか？

YES NO

ワーク2 都市復興の目標を自分ごととして考えよう

災害に強く、人がつながり、誰もが住み続けたいと思えるまち

1. 災害に強く、命と暮らしを守れるまち

2. ゆとりある住環境のもと、落ち着いた暮らしが続くまち

ワーク3 今日からできる事前復興を見つけよう

自分個人ができることは？

行政から発信をしよう

自分が地域の一員としてできることは？

地域への何らかの関わり

都市復興の目標について、気づいたこと／感じたこと

- 「2.ゆとりある住環境…」と「3.開かれた地域コミュニティ、顔の見える関係性のあるまち」は、両立がむずかしい
- 全体的にどこの地域にも言える目標だと思うので独自性がほしい

個別

Q

被災後もこの地域で暮らし続けたいと思えるのは、どんな人との関わりや地域のあり方ですか？

- インフラが充分整備されゆとりある環境かつ、適度に開かれた地域コミュニティ。2を前提に3も
- 行政の人と区民との顔がみえる関係を！
- 外国人との仲間づくり、地元民とのコミュニケーション

都市復興の目標について、気づいたこと／感じたこと

- 善福寺川や和田堀地域を歩くのが好きで、目標にかかっているのはいい
- みどりのある地区のイベントなどが十分周知されていないのでは？
- 花めぐりができるフラワー通りをつくりたい

個別

Q

復興事業で整備する公園のデザイン方針について、重視したいと思う点がありますか？（歴史性、みどり、震災を伝承するモニュメントの移築・保存など）

- 夜でも散歩できるみどりの空間があればよい（下草の管理、照明）
- 公園が多いので豊島区を参考に避難できる場所や施設、ふだんは屋外音楽会場などにする

第3回 事前復興まちづくりミーティング グループワーク

～それぞれの立場からみた都市復興と、今日からできる事前復興を考えよう～

都市の復興とは：災害により傷ついたまちが、被災前よりも元気に、良いまちとして生まれ変わること

D班

ワーク1 復興ロールプレイング YES・NO ゲーム

第1問：地域復興協議会の役員を引き受けますか？

●● YES ●● NO

第2問：復興祈念盆踊り大会を開催することに賛成しますか？

●●● YES ●● NO

ワーク2 都市復興の目標を自分ごととして考えよう

災害に強く、人がつながり、誰もが住み続けたいと思えるまち

ワーク3 今日からできる事前復興を見つけよう

自分個人ができることは？

自分が地域の一員としてできることは？

都市復興の目標について、気づいたこと／感じたこと

- ハードのイメージについて、パース等を示すべき？
- 路地の良きあふれ出しのあるまちをのこしたい

個別
Q

被災者向けの公営住宅の建設について、自分の生活だけでなく、まちや将来の暮らしへの影響も含めて、気になること・不安に思うことはありますか？

- 区画整理をせざるを得ない↔まちの良さがなくなる？
- 新住民の流入で、新しい復興まちづくりの強い力になる
- 土地をどう確保するかに時間がかかりすぎる気がする
- コミュニケーションが取りやすい建物・設計

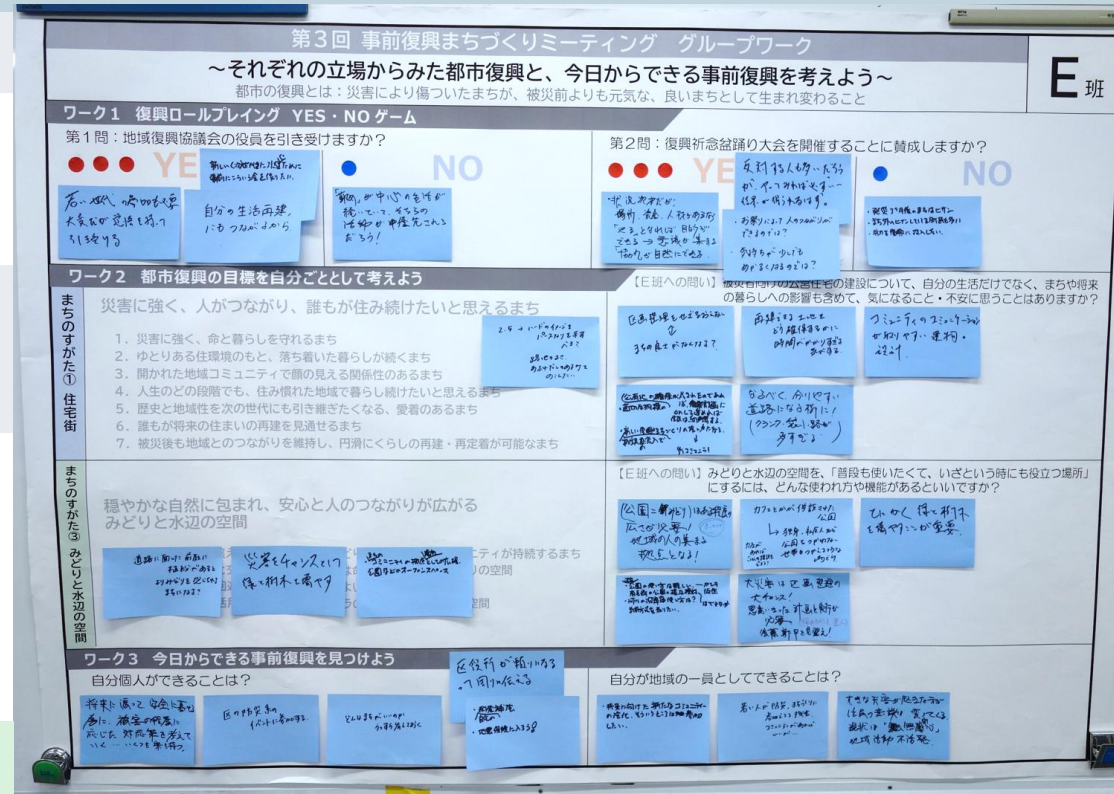
都市復興の目標について、気づいたこと／感じたこと

- 道路に面した前庭に植栽があると、よりみどりを感じられるまちになる？
- 災害をチャンスとしてみどりと樹木を増やす ●コミュニティの拠点場所としての広場、公園などのオープンスペース

個別
Q

みどりと水辺の空間を、「普段も使いたくて、いざという時にも役立つ場所」にするには、どんな使われ方や機能があるといいですか？

- 大災害は区画整理の大チャンス！思い切った計画と実行が必要
- 公園はある程度の広さが必要！地域の人が集まる拠点となる！
- カフェとかが併設された公園→独身、社会人など公園を使わない世帯も使えるような場所
- とにかくみどりと樹木を増やすことが重要
- 南長崎の公園の様な検討はできないか



自分自身ができること

A班

- 家の中の防災（転倒防止など）電気をどうするか（自家発電、エアコン、冷蔵庫など）
- 興味、関心の継続 ●消防の意識と準備 ●あるべきまちのビジョンを再確認（家族間、町内会）

B班

- 事前復興についてあらためて考える。どんな町をつくりたいか
- 地域の活動に参加して、顔見知りを増やす ●ご近所のほどほどの把握、つながる努力

C班

- 自分の住んでいるところの特徴、良い所を考え、知っておく、人に聞いておくのもよい
- 地域情報のアップデート→SNSなど身近なツールを活用して、正式（オフィシャル）情報を得る！
- 町会・震災救援所運営連合会で事前復興について情報共有 ●住まいや周辺の危険個所の把握

D班

- 日頃から健康に気をつけたい・足腰をきたえておく ●若い世代への発信
- 地域の活動にアンテナを高くする ●家族間や各地域でのBCP的なものを確認していく

E班

- 将来にわたって安全に暮せる為に、被害の程度に応じた対策策を考えていく…いくつも案を持つ
- どんなまちがいいのかうっすら考えておく ●自宅の耐震補強
- 区の防災系のイベントに参加する

自分**が地域の一員として**できること

A班

- 町会役員会での意識向上と啓蒙
- 地域の一員、向こう三軒、両どなりとの関係づくり
- 近所と助け合い、両どなりを中心に
- 地域コミュニティのメンバーとのつきあい継続

B班

- 町会に若い人を誘う（難しい）
- 地域の仲間と情報共有
- 多様な人がいるので地域の人をどのように区分するべきか（課題別に分けるべきか）

C班

- ラジオ体操・気功で地域の健康づくり
- 感震ブレーカーを近所にすすめる
- 近所の方に元気に挨拶
- 特に火災など危険区域に住んでいる方々を集め、災害時に被害を最小に出来るよう考えていく

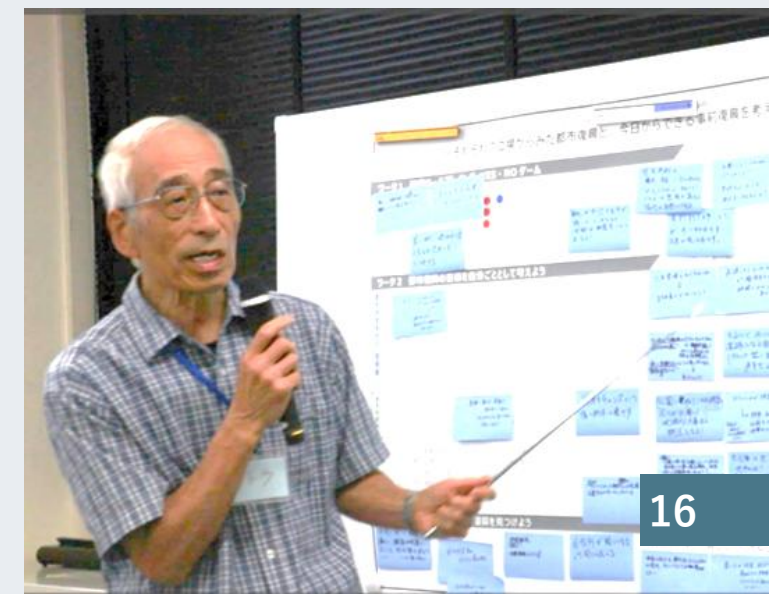
D班

- 地域の仲間に行行政や防災情報を伝え、地域力のレベルアップをはかる
- 地域のイベントに参加する
- 1年前まで寝に帰るだけの杉並だったので、これからアンテナを張って探していきます

E班

- 将来に向けた新たなコミュニティの強化、そういうところは参加したい
- 大きな災害が起きた方が、住民の意識は変わってくる。現状は「無関心」地域活動は不活発
- 若い人が防災、まちづくりに参加できる機会、コミュニティがあればいいが…

発表の様子



【ワーク2でいただいた、まちのすがた・小目標に対する主な意見について、カテゴリや論点ごとに分類しています】

まちのすがた① 住宅街

- 1) 安全性・安心感の向上への期待（小目標1に関連）
 - ・耐震・耐火構造の建物を推進 ・空き家・所有者不明家屋の解消
 - ・道路整備をしっかりと進める ・耐震性の高い集合住宅への再編
 - ・緊急車両が通行可能な道路幅の確保 ・避難を支える人材育成
- 2) 住環境の質の向上と居住の継続（小目標2・4・6に関連）
 - ・みどりがある静かなまち ・子どもが安心して暮らせる街
 - ・単身世帯の多い地域では、共同住宅建設より転居先確保が重要
- 3) コミュニティ形成と地域とのつながり（小目標3・4・7に関連）
 - ・地域コミュニティの交流の場を復興で広げる
 - ・多世代が住むまち
 - ・ゆとりある住環境と、顔の見えるコミュニティは両立が難しい
 - ・障害のある方・外国人・子どもなどが守られるまち
- 4) 地域らしさや愛着の継承（小目標5に関連）
 - ・地域の文化・歴史・音楽のまちとしての特徴を大切にしたい
 - ・路地の魅力を残したい
- 5) 目標の伝わりやすさや具体性
 - ・全体として一般的で地域の独自性が見えにくい
 - ・「ゆとりある住環境」が曖昧 ・パース等でイメージがほしい

まちのすがた② 駅前・商店街

- 1) 個性や魅力のある駅前・商店街への期待（小目標1に関連）
 - ・「小目標1. 個性」を推す。とても良い
 - ・たまに行く美味しいお店がある
- 2) にぎわいが生まれる場所・環境づくり（小目標2に関連）
 - ・24時間動き続けるまちであってほしい
- 3) 広場やオープンスペースの活用（小目標3に関連）
 - ・人を受け入れるだけでなく、人が使い倒せる場所にしたい
 - ・住民も来街者も自由に活用できる空間が必要
- 4) 安全性・回遊性・まちなみ（小目標2・3に関連）
 - ・自転車で移動しやすいまち／自転車が利用しやすい商店街
 - ・安心感のあるまち ・雑多な建物の整理
- 5) 持続性への視点（小目標4に関連）
 - ・個人商店が他者に引き継がれ、業種が変わっても継続していく仕組み

【ワーク2でいただいた、まちのすがた・小目標に対する主な意見について、カテゴリや論点ごとに分類しています】

まちのすがた③ みどりと水辺の空間

1) みどりを活かした交流・コミュニティ（小目標1に関連）

- ・みどりのある地区のイベントをもっと周知してほしい
- ・花めぐり等のイベント開催
- ・広場や公園をコミュニティの拠点にする

2) 自然の力で防災力を高めるまちづくり（小目標2に関連）

- ・非常時に役立つみどりの空間

3) 日常的に楽しめるみどりの空間（小目標2・3に関連）

- ・23区内でありながらみどりが豊か
- ・歩いて回遊できる空間を目標として掲げることに共感できる
- ・みどりの中で星空をみたり、テントを張れる空間があるといい

4) 身近な場所でのみどりの創出（小目標2・4に関連）

- ・復興を機会としてみどりや樹木を増やす
- ・道路沿いの前庭植栽を増やしたい

【まちのすがた・小目標に対する意見等のまとめ】

	まちのすがた、小目標に共感・賛同が得られた部分	目標や区の取組について思ったこと・新たな気付き
まちのすがた① 住宅街	・防災性向上を重視する方向性 ・地域らしさや愛着を重視する方向性	・各地域の独自性がほしい ・多様な居住ニーズへの配慮がほしい ・コミュニティとプライバシーの両立について考えたい
まちのすがた② 駅前・商店街	・個性ある駅前・商店街という考え方 ・持続的にぎわいと暮らしを支えるという考え方	・商店街の継続性を重視してほしい ・移動のしやすさを向上させてほしい ・誰もが利用しやすい空間づくりをしてほしい
まちのすがた③ みどりと水辺の空間	・自然の機能を活用する考え方 ・歩いて楽しいみどりと水辺の空間という考え方 ・みどりを活かした交流や憩いの場を重視する考え方	・みどりを活かした活動の周知・参加促進をしてほしい ・身近な緑化活動も推進したい ・復興を契機としてみどりを増やしたい

【ワーク2で各班ごとに聞いた個別  からみえてきた、参加者が大切だと考えている価値観について】

まちのすがた① 住宅街

- ✓ **安心して住み続けられる見通しがあること**
 - ・安全なまちであること
 - ・建物再建費用やローンへの不安
 - ・高齢者でも再建できる環境
 - ・将来の見通しが分かること
- ✓ **人とのつながりが維持されること**
 - ・近所同士の助け合い
 - ・行政と住民の顔が見える関係
 - ・新しいコミュニティ形成
 - ・外国人との交流
 - ・地域拠点を中心としたつながり

- ✓ **災害に負けない安全なまちであること**
 - ・建物の堅ろう化
 - ・道路拡幅
 - ・クランクや袋小路の解消
 - ・井戸の活用
 - ・公園・広場の整備
 - ・避難所環境の充実
- ✓ **暮らしやすさと地域への愛着があること**
 - ・公園が多い
 - ・買い物環境が充実
 - ・地域らしさの継承
 - ・誰もが活躍できる場所がある
 - ・多世代が交流できる場

まちのすがた② 駅前・商店街

- ✓ **地域らしさや個性が感じられること**
 - ・個人商店が多いまち
 - ・本屋や喫茶店
 - ・地域ならではの店舗
- ✓ **人が集い、過ごしたくなること**
 - ・さまざまな店が集まるにぎわい
 - ・広い歩道
 - ・ゆっくり過ごせる空間
 - ・ファミリーが利用できる場所
- ✓ **日常と非常時の両方を支える機能があること**
 - ・日用品を確保できる店舗
 - ・耐震性の高い建物
 - ・非常時にも利用できる機能
 - ・駅周辺の交通動線改善

まちのすがた③ みどりと水辺の空間

- ✓ **豊かなみどりを身近に感じられること**
 - ・みどりや樹木を増やす
 - ・水辺空間の活用
- ✓ **誰もが日常的に利用できること**
 - ・夜も安心して散歩できる
 - ・カフェ併設公園
 - ・屋外イベントの開催
 - ・地域の交流拠点
- ✓ **いざという時に人々を支えること**
 - ・避難場所としての機能
 - ・十分な広さの確保
 - ・防災機能を備えたオープンスペース

【ワーク3で話し合った“今日からできる事前復興”について】

▶ 自分自身ができること ▶▶▶

家族で
話す

家族で備えを話し合う

→ 暮らしの将来像、災害時の対応方針などを家族で確認する

情報収集

地域情報を収集する

→ 地域活動や広報に関心を持つ

公式情報を活用する

→ 身近なツールや行政からの発信から情報を得る

心身の
健康

心身の健康を維持する

→ 日頃の健康管理や体力づくり、心が和む環境づくり

防災対策

家庭の備えを強化する

→ 家具転倒防止、耐震補強、保険加入、停電対策

地域リスクに備える

→ 危険箇所の把握、被害想定に応じた対策の検討

防災意識を高める

→ 防災イベントへの参加や、消防・防災知識の習得

将来を
考える

まちの将来を考える

→ どのようなまちを目指したいかを考える

地域の魅力を知る

→ 地域の良いところを知る、聞く、再認識する

関心を持ち続ける

→ まちづくりや地域への興味・関心を継続する

▶ 地域の一員としてできること ▶▶▶

地域との
顔つなぎ

日頃から交流を心がける

→ 挨拶や声かけなどを通じて、顔の見える関係を築く

地域とのつながりを深める

→ ご近所との関係づくりに取り組む

情報共有
・助け合い

地域で情報を共有する

→ 近所で情報交換し、地域全体の防災力向上につなげる

近所で助け合う

→ 災害時を見据え、日頃から近隣と支え合える関係をつくる

地域で有事に備える

→ 災害時の役割分担について地域で検討し、備える

地域活動
参加

町会・自治会などの活動に参加する

→ 活動に参加し、地域とのつながりを深める

地域活動の担い手を増やす

→ 幅広い世代の参加を促し、地域活動を活性化する

地域の未来
を考える

地域の将来像を考える

→ どんな地域を目指すのか、地域のあり方について考える

新たなつながりを育てる

→ 多様な人々が参加できる新しいコミュニティづくりや関係づくりを進める

✓ 復興後の目指すべきまちのすがたについて再確認された方向性

まちのすがた① 住宅街

- ・安心して住み続けられる安全な住環境
- ・誰もが快適で暮らしやすい生活環境
- ・人のつながりを生む空間の維持・創出
- ・地域らしさと愛着を次世代に繋ぐ住環境

まちのすがた② 駅前・商店街

- ・地域らしさと魅力が受け継がれる商業空間
- ・地域に開かれたにぎわいと交流の拠点
- ・安全で快適な移動が暮らしを支えるまち
- ・日常と非常時を支える持続可能な拠点

まちのすがた③ みどりと水辺の空間

- ・身近なみどりを創出し育む空間
- ・誰もが活用し楽しめる憩いの空間
- ・交流とコミュニティが生まれる空間
- ・防災機能を備えたみどりと水辺の空間

✓ より良い復興のために今日からできること

自分自身が
できること



地域の一員
として
できること



- ・地域を知る
- ・危険を知る
- ・情報を得る
- ・将来を考える

知る・
考える

備える

- ・防災対策
- ・耐震化や保険への加入
- ・日々の健康づくり
- ・家族で話し合う

つながる

- ・顔見知りを増やす
- ・助け合う関係をつくる

- ・地域活動に参加する
- ・情報を共有する



東京都立大学 都市環境学部
市古 太郎 教授

グループワーク3の、事前復興のために自分でできること、地域でできること、という着眼点に関連して、一般社団法人 災害協働サポート東京代表

理事の立場からコメントすると、災害時に地域の復興のために「自分はこれをやる。」「地域・グループとしてこれに取り組みたい。」だから、それらの活動を行政にも後押しして欲しい、という視点も重要だと思います。

能登半島地震では、公益財団法人「ほくりくみらい基金」さんを中心に、被災者支援や復興活動に取り組む地域団体への資金助成を行ってきました。炊き出しや地域文化の継承など、市民主体の復興活動には一定の経費が必要であり、地域の中で必要なお金を循環させる仕組みが欠かせません。

杉並区として、地域協働復興を支えるための仕組みを構築しておくことも、杉並らしい復興につながるのではないかと思います。



早稲田大学 社会社会科学総合学術院
益子 智之 准教授

第1回、第2回の事前復興まちづくりミーティングに続いて参加しましたが、今回どのような成果が出るのか大変楽しみにしていました。

全体目標に書かれている「災害を乗り越える」という視点に関連して、グループワークで挙げた、“災害をきっかけにご近所同士のつながりが生まれることもある”という意見が特に印象に残っています。

被災地では、災害後に初めて地域の方々と顔を合わせ、そこから復興が進んでいくことも少なくありませんが、ご近所同士で日頃から挨拶を交わしたり、事前復興について話題にしたりするなど、今日からできることを少しずつ実践していくことも大切だと思います。また、復興は長い時間を要するため、一人が役割を担い続けるのではなく、それぞれができるときに地域での役割を担い、自分のペースでまちの復興に関わっていくことが重要だと思います。

✓ ミーティング全体の満足度



✓ 基調講演の感想（自由記述）

- ・「可及的速やかに」と「議論を尽くして」を、“vs”や“or”ではなく“and”として、事前復興によって行うということがわかった
- ・具体的な他地域の活動を知ることができてよかった
- ・被害状況がまったく分からない状態で、次の計画を考えていかなければならない→難しい

✓ グループワークの感想（自由記述）

- ・自分ごととして考える機会になるので良いと思う
- ・区のハード部門との連がりの説明も欲しかった
- ・ワークの時間が短い&課題を理解できていない人もいたので解答例を示してあげてもよいと思う
- ・問いの設定が上手く、楽しく参加出来た
- ・皆さん、それぞれ自分の意見を出され参考になった

✓ ミーティング全体の感想（自由記述）

- ・難しいテーマをどうアプローチするかをよく考えられていて良かった
- ・多様な意見を知ることができた
- ・まじめな課題を楽しく語り合えた
- ・本日の結果がどの様に区の最終方針に入れられるのかが興味深い
- ・ワークがおもしろかった